



Walk with Children めぐる

大人 子供

せいび

204号
2024年9月

あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。
あなたがたは世の光である。・・・あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。

マタイ 5章 13～16節

校長 シスター 小島 理恵

今夏はたいへんな暑さに見舞われただけでなく、安定した夏空が続かず、急な雨や雷雨、また、次々と生まれ、日本各地に被害をもたらす台風など、自然の営みを前に、わたしたち人間の無力さを感じざるを得ないこの頃です。

さて、今年度前期も後半が一日一日と過ぎ、最終のひと月を迎えます。先週は子ども達の一致の力が発揮された音楽会が終わりました。9月に入ってから毎日のように歌声や楽器の演奏が教室から聞こえていました。日を追うごとに美しいハーモニーが作り上げられ、リコーダーの音色も一つになっていくのが見て取れました。一つの行事が、子ども達にとって素敵な思い出の1ページになったことと思います。

塩が一粒では、塩味はあまりよく分かりません。光が一筋ではあまり明るくないかもしれません。しかし、たくさんの塩・光が集まり一つになった時、塩の味がはっきりと分かり、明るい光を輝かせることができます。子ども達が友達と一緒に過ごすことで多くを学び、力をつけていけるよう、これからも応援していきたいと思います。

コンネッショナー Connessione ～つながり～

「Connessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。
そこで、ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。

(神は) 私たちを耐えられないような試練に遣わせることはなさない

コリントの信徒の手紙 I 10章 13節

今年の夏の甲子園、今年初出場を果たした高校の部員についてメディアで報じられていました。

彼は、ある日、練習中に倒れ、数日後に脳梗塞と診断され、ボールを握ることもできず、補助や車いすがなければ歩くことができなくなりました。

「選手として戻りたい」と懸命にリハビリを続け、できるようになることが増えていく最中、彼はマネージャーとしての道を選びました。ノックでのボール渡しや道具の準備、練習時間の調整、選手へのアドバイス、そして、バッティングの調子が悪い選手がいればバッティングピッチャーをし、守備に課題のある選手がいればノッカーになりと練習相手になり、選手の経験を生かし、さまざまな場面でチームを支え続けました。

選手達も彼の思いに応え、強豪校を次々と破り、初めて夏の甲子園への切符を手に入れました。

「3年生で甲子園に行けるなんて、漫画みたいだ。」

という彼にむかって、選手たちは口々に言います。

「彼のおかげで、甲子園に来れた。あいつがいなかったらぼくたちはここにはいない。」

私達に試練を与える神様は、同時に耐えることができるよう、抜け出る道をも用意してくださるのだと確信させられました。

4年生は、志賀高原で3泊4日の合宿を行いました。神様が創造された大自然を満喫し、自然の雄大さと共に友達
の存在の大きさを改めて実感しました。

がんばったハイキング

4年

志賀高原で一番に頑張ったことは、ハイキングです。

6時間で10キロメートルのコースは、とても苦しくて、大変なのかなと思っていました。

しかし、友達が「大変だけれど、がんばろうね。」とはげましてくれて、最後まで歩くことができました。と中、私が
転んでしまったら、

「大丈夫。」

と声をかけてくれる友達もいました。友達のやさしさと大切さを知ることができました。

家に帰って、家族にハイキングのお土産話をしたら、がんばったことをほめられました。

これからも友達にやさしくしていきたいです。



夏の集い 7/18

みんなの頑張りが形になった夏の集い

6年児童会

今回の夏の集いで児童会では全校が楽しめるように準備しました。開・閉会式、地図そしてプログラムを作りました。
準備している時はとても大変でしたが、当日みんなを見てみると、私達で作った地図やプログラムを見て行き先
を決めている子がいて、一生けん命準備を頑張った良かったと思いました。

また、みんなが楽しんでいるのは、目黒星美の一人ひとりが熱心に、みんなのために取り組んだ結果だと思います。
これからもみんなが笑顔になるような活動を続けていきたいと思っています。

笑顔溢れた夏の集い

児童会担当

今年は児童会担当になり、初めて企画・運営の準備を子供たちと一緒に行いました。全校児童にどのように楽しん
でもらいたいか、そのために何をどう進めていくかを何度も話し合ったり、自分たちでもみんなのために何が準備で
きるのか考えたりするなど、休み時間も集まって計画を立て、当日に向けて熱心に活動を進めていました。

特に今年は、新しい活動として夏の集い中持ち歩けるパンフレットを作ったり、人通りが多い場所に大きな地図を
掲示して、どこでどんな出しものを行っているのか分かりやすくしたりするなど、全校児童が楽しめるよう見やすさ
にも工夫して、当日ぎりぎりまで準備をしました。それぞれのクラスや委員会でお互いに声を掛け合いながら助け合い、
当日は児童の沢山の笑顔で溢れる素敵な夏の集いになりました。



心を込めた夏の集い

6年宗教委員

僕たち宗教委員会は、夏の集いで飾り付けを担当し、地下2階から3階までの階段につける輪飾りや花飾りを作ることになりました。しかし、それだけでは物足りないと考え、みんなが楽しめるように、各フロアに宗教クイズを作り掲示をすることにしました。時間を見つけて各自製作に励みました。

当日、クイズは大好評でした。1年生が「難しい」と言いながらもクイズに挑戦してくれている姿を見て嬉しかったです。思い出に残る夏の集いになりました。

参加児童3年生の声より

3年A組の夏の集いの出し物はボウリングでした。準備では、友達と話し合い、協力しながら進めることができました。特に、レーン作りやピン作りは難しかったけれど、みんなで作ったから楽しんで取り組むことができました。また、当日はとても忙しかった中で上手に役割分担することができました。お客さんとして来てくれた人が楽しそうにボウリングをし、笑顔をたくさん見ることができたときに「やりきったな。一生懸命準備してよかった。」と感じました。友達と協力する大切さや誰かのために頑張る楽しさを感じることができた夏の集いでした。

オーストラリア研修

7/30~8/8

国際交流プログラム担当

21人の児童と共に国際交流プログラムとしてオーストラリア、ブリスベンで9日間のホームステイを行いました。どの児童も素直で前向きに参加し、ホストファミリーから温かく迎え入れていただくことができました。学校の授業へも積極的に参加し、わからない中でも少しでもわかるように努力する姿が見られました。現地の学校やホストファミリーだけではなく、近畿日本ツーリスト様、現地コーディネーターの方々、多くの力を借りながら、日本では得られない非日常をしっかりと自分のものにすることができたようです。

国際交流プログラムに参加して

6年

「寒い。」

冬のオーストラリアの地に降り立ったときの感想がこれでした。日本は真夏だったのでより寒く感じ、海外に来たんだと実感しました。こうしてオーストラリアの濃密な9日間が始まりました。

研修の間、私たちはSt. Piusという現地の学校に通いました。現地の子や先生たちなどに温かく迎え入れていただきとてもうれしかったです。休み時間には、現地の子たちが声をかけてくれたり優しく接してくれたりしました。でも、相手が何を言っているのか分からず、どう英語で伝えればいいのかのなやみ、もっと英語を勉強すべきだったと後かいました。それでも日がたつにつれ、ふんい気で分かるようになっていきました。

学校がない日に、ホストファミリーに連れて行っていただき、その近くのお店でご飯をいただくことになったのですが、待っている間、マジシャンの方から

「君もマジックに参加しない？」

と英語で言われ、マジックのお手伝いをする事になりました。専門用語の英語ばかりで分からず困わくしていたら、ファミリーが、指示している動作のお手本をこっそりしてくれてとても優しくったことを覚えています。

この9日間、私たちはたく山の経験をしました。この経験や家族や先生方、旅行会社の方々などのお力添えがあってこそです。本当にありがとうございました。私はこの研修を通して、英語をもっと勉強して、いろいろな人と関わりたいと思いました。かけがえのない思い出が出来ました。

